

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条第1項に基づく

栄町教育委員会の点検・評価報告書

(平成24年度対象)



栄町教育委員会

平成25年11月

はじめに

平成１９年６月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部が改正され、平成２０年４月から全ての各教育委員会は毎年その全ての権限に属する事務の管理、執行状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表することとされました。栄町教育委員会では法の趣旨に則し、課題や方向性を明らかにし、より効果的な教育行政の推進のため実施するものです。また、学識経験者からの意見を受け報告書にまとめ、町議会に報告するとともに町民への説明責任を果たすものです。

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第２７条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第１項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第３項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

２ 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

栄町教育委員会委員名簿

職 名	氏 名
委 員 長	鈴 木 初 子
委員長職務代理者	金 子 一 男
委 員	野 寺 郁 子
委 員	中 島 宣 行
教 育 長	葉 山 幸 雄

目 次

1	点検・評価の対象	P 1
2	点検・評価の方法	P 1
3	点検・評価の結果	P 1
4	点検・評価（施策評価シート）	

平成24年度栄町教育方針

基本方針（1）

創意と活力のある教育活動の中で、基礎基本の習得及び活用能力の育成と個性を生かすきめ細かな学校教育を推進します。 P 2

○学識経験者の意見 P 1 1

○学識経験者からの意見を受けて今後の取組みについて P 1 4

基本方針（2）

生涯学習とスポーツを通して、心身ともに健康で生きがいのある生活と心のかよう地域社会をつくるとともに、地域の教育力を生かした子どもたちの健全育成を推進します。 P 1 7

○学識経験者の意見 P 2 1

○学識経験者からの意見を受けて今後の取組みについて P 2 3

基本方針（3）

地域に根ざした芸術・文化の育成と文化財の保護・伝承・活用を図り、個性豊かで潤いのある地域文化の醸成を図ります。 P 2 4

○学識経験者の意見 P 2 8

○学識経験者からの意見を受けて今後の取組みについて P 2 9

5	本町教育行政が取り組む方向について	P 2 9
---	-------------------	-------

1 点検・評価の対象

点検・評価の対象は、「栄町教育方針」を実現するため、平成24年度の重点的な取組みとして実施した、「教育行政の充実」「学校施設の整備」「特色ある学校づくりの支援」「きめ細かな学校教育の推進」「学習環境の充実」「学校給食の充実」「生涯学習環境の充実」「生涯学習資料の充実」「スポーツ振興事業の充実」「文化芸術発信拠点の充実」「歴史資料の公開・活用」「文化財保護の拡充」の12の施策について点検・評価しました。

2 点検・評価の方法

点検・評価にあたっては、教育委員会事務局で作成した「施策評価シート」により自己評価を実施しました。

評価は、主要事業の取り組み状況（達成度）について

- 目標を達成★★★
- 目標をほぼ達成★★
- 目標に達成していない★
- 現時点で判定できない—

の4段階で実績・成果・課題を記述し、評価する方法で行いました。

なお、客観性を一層高めるため、教育に関し学識経験を有する方に取り組み状況を説明し、基本方針ごとの自己評価に対する学識経験者からの意見をいただきました。

ご意見をいただいた方々のお名前は、次のとおりです。

（50音順 敬称略）

氏 名 田邊 みさを（元学校長）

氏 名 中村 光夫（元自治会長）

3 点検・評価の結果

施策評価シートにより、点検評価を実施しています。

12施策の結果は次のとおり

《目標に対する達成状況》

目標を達成★★★・・・・・・・・・・8施策

目標をほぼ達成★★・・・・・・・・・・4施策

目標に達成していない★・・・・・・・・0施策

現時点で判定できない—・・・・・・・・0

4 点検・評価（施策評価シート）

基本方針（１）

創意と活力のある教育活動の中で、基礎基本の習得及び活用能力の育成と個性を生かすきめ細かな学校教育を推進します。

【施 策 名】

- ・ 教育行政の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 3
 - ・ 学校施設の整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 4
 - ・ 特色ある学校づくりの支援・・・・・・・・・・ P 5
 - ・ きめ細かな学校教育の推進・・・・・・・・・・ P 6～P 7
 - ・ 学習環境の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 8～P 9
 - ・ 学校給食の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 10
- 学識経験者の意見・・・・・・・・・・・・・・・・ P 11～P 13
- 学識経験者からの意見を受けて今後の取組みについて・・ P 14～P 16



施策評価シート

1. 施策の情報整理

施 策 名		教育行政の充実					
現状と課題		子どもの学力や学ぶようとする意識の低下及び子どもの規範意識の低下が問題となっている今、「知」、「徳」、「体」のバランスの取れた「生きる力」を持った子どもの育成が求められている。そのために必要な取り組みを実施していくため国等の情報を的確に収集しながら教育委員会において重要事項や基本方針を決定していく。 ①教職員の資質向上により基礎・基本の定着を図り子どもたちに確かな学力を習得させる。 ②地域の特性を活かした体験活動の充実により心身の健全な発達を促すとともに、活動を通じて達成感や仲間との連帯感を育む。 ③学校支援教員ら介助員等による子どもそれぞれの個性に応じた細やかな指導の徹底。 ④家庭や関係機関との連携による心の教育の充実を図る。					
施策 の 情 報 整 理	目指す成果	教育に関する国等の情報が的確に収集され、迅速に教育委員会に諮り、委員会の意思決定を行うとともに、関係課及び各教育機関の指導等を行い、円滑な教育行政が行われている。					
	施策の目指す成果指標及び実績	指標	現状値	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標数値の説明
		教育委員会所管の施策目標の達成度	—	83%	91%	100%	教育委員会所管の施策について点検評価を実施した際の達成度（施策の目標を達成した割合）
	67%			（実績）	（実績）		
	成果目標の達成度（★★★）	★★	目標を達成（100%）★★★★ 目標をほぼ達成（80%以上）★★★ 目標を達成していない★ 現時点では判定できない—	施策の事業費（上段：最終予算） （下段：決算額）		1,920 千円	
						1,880 千円	
	達成度の理由	教育委員会所管の施策について点検評価を実施した際の、12施策のうち目標を達成した8施策の割合。 （12施策の達成度の内訳は、目標達成が8施策、ほぼ達成が4施策、達成していないが0施策であった） 平成25年度点検評価の見込み数値である。 10月に前年度の施策評価シートで点検・評価を行い、翌年度の施策評価シートを作成していたが本年度の評価見込みで施策評価シートを作成し年度のずれをなくす。					
	設定成果指標以外に現れた成果の説明						
	外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	児童・生徒の減少による学校の統廃合 学校統合に伴う通学路の整備					
	住民との協働や他課の事業との連携	学校統合に伴い、児童・生徒の通学対策（通学路整備、スクールバス運行）について、学校及びPTA等と連携を図る。 地方教育費調査について、財政及び人事関係課と連携を図る。					

2. 事務事業の取り組み

（単位：千円）

事務事業名		平成24年度の取組実績	事業の評価（取組の課題及び今後の課題への対応）		事業費	
①	教育総務運営事業	定例会12回、臨時会2回の教育委員会会議の開催により、重要事項や基本方針の決定を行い円滑な教育行政が行えた。また、教育委員会の施策に対して点検評価を行い目標達成度の検証を行った。	【取組への課題】 「知」、「徳」、「体」のバランスの取れた「生きる力」を持った子どもの育成とは、人間形成であることから一朝一夕に効果を得られるものではなく、目に見えた効果が得にくい。家庭・地域と連携を図りながら時間をかけて行っていく必要がある。	H23 決算	1,889	
				H24 予算	1,920	
			【課題を踏まえ25年度の対応】 それぞれの事業の効果を検証しながら、子どもたちに寄り添いきめ細やかな教育行政が実施できるよう常に協議・検討していく。	H24 決算	1,880	
				H25 予算	1,922	
合 計				H23 決算	1,889	
				H24 予算	1,920	
				H24 決算	1,880	
				H25 予算	1,922	

施策評価シート

1. 施策の情報整理

施 策 名		学校施設の整備					
現状と課題		学校施設は子どもたちの教育を行う場所であるのみならず、地域コミュニティ育成の場や災害時の避難場所としても利用されるものであり、常に安全が確保されているべき場所である。 北辺田小学校の校舎及び体育館を除いて学校施設の耐震化を完了している。 未完了の施設について耐震化を進めていく必要がある。					
施策の情報整理	目指す成果	児童生徒及び教職員がより良い学校施設の環境で学習することができ、安心して学校生活が送れる。					
	施策の目指す成果指標及び実績	指標	現状値	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標数値の説明
		学校施設の耐震化率	90.5% (H23)	90.5%	100%	100%	耐震化の必要棟数に対する整備率
	90.5%			(実績)	(実績)		
	成果目標の達成度 (★★★)	★★★	目標を達成(100%) ★★★ 目標をほぼ達成(80%以上) ★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —	施策の事業費 (上段:最終予算) (下段:決算額)		70,884 千円	
						68,640 千円	
	達成度の理由	学校施設21棟のうち19棟が耐震化済である。 24年度は計画どおり北辺田小学校校舎及び屋内運動場耐震補強工事実施設計を実施し、平成25年度に補強工事を行い学校施設の耐震化が完了する。					
設定成果指標以外に現れた成果の説明							
外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	児童生徒の生活習慣の多様化により学校トイレを和式トイレから洋式トイレに改修する。 学習環境の向上を図るため、教室等照明器具のLED照明への切り替え。 安食小学校校舎長寿命化(建替え) 学校統廃合に伴う施設の改修 学校統合に伴う跡地の利活用 グラウンドの改修(栄中・安食台小) 非構造部材の耐震化						
住民との協働や他課の事業との連携	北辺田小学校校舎・屋内運動場耐震補強工事実施設計を実施し、平成25年度工事にあたり、対象校及び学校教育課と連携を図る。 環境整備事業にあたり、PTA及びふれあい推進員の協力を仰ぐ。						

2. 事務事業の取り組み

(単位:千円)

事務事業名		平成24年度の取組実績	事業の評価(取組の課題及び今後の課題への対応)	事業費	
①	学校教育施設整備事業	児童生徒及び教職員がより良い学校施設の環境で学習することができ、安心して学校生活が送れるよう北辺田小学校校舎・屋内運動場耐震補強工事実施設計を行った。	【取組への課題】 耐震補強工事を平成25年12月までに完成させる	H23 決算	26,692
				H24 予算	30,754
			【課題を踏まえ25年度の対応】 東日本大震災復興特別会計予備費を活用し事業の前倒しを図る	H24 決算	30,503
				H25 予算	145,425
②	学校管理運営事業	より良い学校生活が送れるよう予算の適正な執行・管理を行った。	【取組への課題】 各学校の予算については、限られた財源を有効に活用できるようにする	H23 決算	37,164
				H24 予算	40,130
			【課題を踏まえ25年度の対応】 より良い学校生活が送れるよう学校の予算を適正に執行・管理する。また、引き続き老朽化した機器の修理を実施する。	H24 決算	38,137
				H25 予算	39,150
合 計				H23 決算	63,856
				H24 予算	70,884
				H24 決算	68,640
				H25 予算	184,575

施策評価シート								
1. 施策の情報整理								
施 策 名		特色ある学校づくりの支援						
現状と課題		町の人口減少と共に少子化による児童・生徒数の減少が予測される中、学校運営や教育活動など子どもたちへの教育の影響の大きさが懸念される。そのため、小・中学校の望ましい学校規模の目安の設定、望ましい学校規模を確保するための適正な配置が求められている。						
施策 の 情 報 整 理	目指す成果	望ましい学校教育のあり方、学校の適正規模、適正配置に関する基本的な考え方が明確で、各小中学校が、保護者や地域住民の参加した「特色ある学校づくり」を推進できている。						
	施策の目指す 成果指標及び実績	指標	現状値	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標数値の説明	
		学校評価における保護者アンケート	85.5% (H23)	90%	93%	95%	学校評価における保護者アンケートにおいて「学校・家庭・地域」が連携して子どもを育てる環境が整っていると感じる割合	
				91.6%	(実績)	(実績)		
	成果目標の達成度 (★★★)	★★★	目標を達成(100%) ★★★ 目標をほぼ達成(80%以上) ★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —	施策の事業費 (上段:最終予算) (下段:決算額)		9,586 千円		
						9,279 千円		
	達成度の理由	当初の成果目標は、保護者アンケートで開かれた学校づくりについて、「よくあてはまる。」と答えた割合で設定したが、施策を評価するにあたっては全体の意見を反映したものとして「だいたいあてはまる。」を加えた肯定的意見の割合に変更した。その関係で、成果目標の数値も、24年度60%、25年度70%、26年度80%から、上記のとおり変更した。						
	設定成果指標以外に現れた成果の説明	24年5月「栄町立小・中学校の学校規模適正化基本方針」が策定した。 24年12月「栄町小中学校統合に関するアンケート調査」を行い、回答者の9割が適正化方針を受け入れるとの結果を得た。各学校において学校支援ボランティアへのニーズが45事業(H23)から53事業(H24)に増えており、地域人材の活用場が広がっている。						
外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	【小中学校再編事業】 ・小中学校統合に伴う学校名、校歌、制服(中学校)の決定 ・児童生徒の心のケア ・PTA組織の再編、北辺田小学区、酒直小学区、栄東中学区の各地域におけるふれあい推進員を含めた地域の活動力の維持							
住民との協働や他課の事業との連携	・竜角寺台小、安食小、北辺田小において、学校、家庭、地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てる体制づくりの実現に向けて、学校と地域の連携を図り、学校教育を支援する仕組みづくりを進めることができた。 ・通学路の危険個所の確認を、建設課と共同して行った。							
2. 事務事業の取り組み								
				(単位:千円)				
事務事業名		平成24年度の取組実績		事業の評価(取組の課題及び今後の課題への対応)			事業費	
①	小・中学校再編事業	・小・中学校再編事業 24年5月「栄町立小・中学校の学校規模適正化基本方針」が策定した。 24年12月「栄町小中学校統合に関するアンケート調査」を行い、回答者の9割が適正化方針を受け入れるとの結果を得た。		【取組への課題】 27年4月の学校規模適正化が円滑に実施できるよう、計画的に事業を推進していく必要がある。			H23 決算	523
				【課題を踏まえ25年度の対応】 統合準備委員会を立ち上げ、校名、校歌、制服などについて検討を行う。25年12月には、小中学校設置条例の改正案を上程する。 円滑な統合を図れるような交流事業を実施する。			H24 予算	0
							H24 決算	0
							H25 予算	493
②	特色ある学校づくり推進事業	・学校評議員設置業務 学校評議員を全校に配置した。 ・地域住民による学校支援推進業務 地域住民などによる教育活動の充実のための学校支援(ゲストティーチャーなど)を推進した。 ・教育振興支援事業 学校教育振興会へ補助金を交付し、活動を支援した。 ・学校安全指導業務 新1年生を迎えた1学期に各小中学校で、交通安全教室を開催した。 ・学校運営の支援業務 小学校5校に日々雇用職員の学校用務員の配置を行った。		【取組への課題】 ・交通安全教室で使用する信号機セットの老朽化が激しい。 ・現在の学校評議員意見聴取報告書では、意見に対する学校の対応が把握できない。			H23 決算	5,167
				【課題を踏まえ25年度の対応】 ・信号機セットの更新について検討する。 ・様式等を改正し、学校評議員の意見に対する学校の対応について把握し、保護者や地域住民の意向を反映した開かれた学校運営に努めていく。			H24 予算	8,567
							H24 決算	8,366
							H25 予算	11,848
③	栄っ子夢・元氣プロジェクト推進事業	・栄っこ夢・元氣プロジェクト推進事業 平成21年度より竜角寺台小学校が実施し、23年度から、新たに安食小学校、北辺田小学校が学校支援地域本部を設立して、コーディネーターを配置し、学校を支援するボランティアの組織化に取り組んでいる。 各学校でボランティアだよりなどを発行し、活動の周知を図った。		【取組への課題】 各学校においてボランティアの組織化がされ、学校からのニーズも増えているが活動できる人材が固定化されてしまい、ボランティアの負担が偏っているためボランティアの人数を確保していく必要がある。			H23 決算	810
				【課題を踏まえ25年度の対応】 地域に向けたボランティアだよりの発行回数を少なくとも学期に1回、年4回発行するとともに、コーディネーターが地域で活動する団体(老人クラブ・自治会・サークルなど)に対し、事業のPRをしながらか人材確保に努める。			H24 予算	855
							H24 決算	765
							H25 予算	782
④	教職員等の適正配置事業	・教職員の服務 昇給内申等に関する業務・教職員人事評価に関する業務 教職員の昇給内申事務、産休・育休に関する業務、履歴事項に関する業務など教職員の服務に関する業務を適切に行った。 療休代替職員として、町負担の事故対策教員を2か月配置した。 ・学級編制に関する業務 教職員の適正配置、適正な学級編制を実施した。		【取組への課題】 ・教職員が疾病等のため病気療養に入った場合、県の講師等が配置されるまで、教職員が欠員状態となり、児童生徒の授業等に大きな影響が生じ、また他の教職員の負担増にもなり、学校運営に支障が出る。			H23 決算	164
				【課題を踏まえ25年度の対応】 ・県の講師等が配置されるまでの間、学校運営に影響が出ないよう、町負担による事故対策教員を配置する。			H24 予算	164
							H24 決算	148
							H25 予算	164
合 計							H23 決算	6,664
							H24 予算	9,586
							H24 決算	9,279
							H25 予算	13,287

施策評価シート							
1. 施策の情報整理							
施 策 名		きめ細かな学校教育の推進					
現状と課題		子どもの学力や学ぶようとする意欲の低下、規範意識の低下などが問題になっており、「知」「徳」「体」のバランスのとれた「生きる力」を育てることが求められている。次代を担うこととたちにに対し、基礎・基本の定着を図り確かな学力を習得させるとともに、地域の特性を生かした体験活動を充実し、個に応じたきめ細かな指導を推進してきた。 自ら学ぶ意欲を身に付けた心豊かでたくましい子供を育てるためには、学校支援員や介助員を活用したきめ細かな教育の展開や家庭や関係機関との連携による心の教育の充実、教職員の指導力向上などが求められている。					
施策の情報整理	目指す成果	一人ひとりの個性を活かし、基礎・基本を徹底させ、思考力・表現力を伸ばす教育により、確かな学力と豊かな心を持ち、社会の変化に対応でき、たくましく生きられる児童生徒が育成されている。					
	施策の目指す成果指標及び実績	指標	現状値	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標数値の説明
		千葉県標準学力検査の県平均との比較の結果	小35% 中13.3% (H23)	小80% 中50%	小90% 中60%	小100% 中70%	各校2月に実施される学力検査の結果が県の平均に到達している小・中学校の教科割合
	成果目標の達成度(★★★)	★★	目標を達成(100%) ★★★ 目標をほぼ達成(80%以上) ★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —			施策の事業費 (上段:最終予算) (下段:決算額)	28,996 千円
			28,659 千円				
	達成度の理由	目標値の設定当時の考え方は町内小学校、中学校それぞれの延べの教科数のうち、県平均を上回った延べの教科数の割合で設定していたが、町の学力という観点から考えると、町平均との比較によることが妥当であると判断して、数値の捉え方を変更した。 町平均と県平均との比較(町の小学校、中学校それぞれの教科数のうち、県平均を上回った教科数の割合)でみてみると、小学校75%、中学校40%となり、実績値が目標値の8割を超えたことから、「ほぼ達成」と評価した。					
	設定成果指標以外に現れた成果の説明	運動能力証の交付を受けた児童生徒数が268名(対前年比33名増加)となり、交付率が対前年度比5.8ポイント伸び、33.8%となった。 小中学校別の交付率を見てみると、小学校37.8%、中学校31.3%となっており、それぞれ郡市平均(小学校34.6%、中学校26.75%)を上回っている。					
	外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	・教職員のモラルアップに対する取組 ・スクールカウンセラーの必要性の高まり					
	住民との協働や他課の事業との連携	・月1回、要保護児童に関する情報交換を、福祉課、健康保険課と行った。					
2. 事務事業の取り組み							
事務事業名		平成24年度の取組実績	事業の評価(取組の課題及び今後の課題への対応)			事業費	
①	学力向上プラン推進事業	・授業改善推進業務 ・栄町学力向上推進事業 学力スタンダードを活用した取組においては、児童・生徒の漢字・計算の基本的技能の向上に寄与し、千葉県標準学力テストにおいても、前年度の数値を上回るものが多かった。 ・栄町学習道場(わくわくドラム)事業 7月～8月にかけて、「基礎学力充実コース(15回)」と「プロジェクト研究コース(16回)」を実施し、夏季休業中の児童・生徒の家庭学習の習慣づけに寄与するとともに、基礎基本の充実、探究的学習への意欲づけを図ることができた。	【取組への課題】 学力テストの県平均を上回っていない学校がある。			H23 決算	815
						H24 予算	761
			【課題を踏まえ25年度の対応】 ・学力スタンダードの中学英語編を作成する。 ・「学力パワーアップ総合月間」の充実を図ります。 ・9月から県事業を活用し、放課後における学習支援のため安食台小学校へ学習サポーターを派遣する。 ・10月より「サタデーわくドラ」として栄町学習道場を隔週土曜日に開催する。			H24 決算	687
						H25 予算	800
②	個に応じた授業改善推進事業	・指導法改善推進業務 小学校5校に学校支援教員を配置し、また1校に複式対応教員を配置した。 ・特別支援教育整備業務 小学校2校、中学校1校に介助員を配置した。 ・心身障害児教育、就学指導委員会運営業務 就学指導委員会を開催し、答申により適正な就学指導を行った。	【取組への課題】 ・年々特別支援を必要とする児童生徒が増えている			H23 決算	17,676
						H24 予算	15,652
			【課題を踏まえ25年度の対応】 ・保護者の意向を踏まえ、適切に対応していく。			H24 決算	15,592
						H25 予算	18,982

③	豊かな心、健やかな体づくり教育推進事業	・教育相談体制整備業務 教育相談体制として教育相談員、小学校スクールカウンセラーを配置した。 ・教育支援センター運営事業 不登校児童生徒は小学校2人、中学校3人おり、「ゆうがく館」に指導員を配置し、不登校児童・生徒に対する指導、相談及び集団適応支援を行った。 ・生徒指導支援業務 生徒指導担当者会議を7回開催し情報の共有を図り、生徒指導の助言を行った。 ・学校人権・道徳教育推進業務 指導主事が学校に出向き、道徳教育について指導・助言した。 ・体力向上、健康増進教育推進業務 毎年、新体力テストを実施し、食育の推進を行った。 ・学校図書館教育推進業務 緊急雇用事業により学校図書館司書を各校に配置し整備を図った。	【取組への課題】 ・24年度で緊急雇用による図書館司書の配置が終了となる。 ・スクールカウンセラーの必要性が高まっている。	H23 決算	8,638
				H24 予算	7,222
			【課題を踏まえ25年度の対応】 ・児童・生徒の学習意欲向上のため、学校図書館司書を継続して配置する。 ・前年度同様、小学校1校に1人配置する。	H24 決算	7,154
				H25 予算	6,144
④	国際化に対応した人間教育事業	・小・中学校外国語教育推進業務 中学校には外国語指導助手（ALT）を、小学校には国際理解教育指導員をして配置し、各学校の英語活動の指導の支援を行った。	【取組への課題】 ・小学校に配置されている国際理解教育指導員は日本人であるが、英語教育活動のより一層の充実を考えた場合、外国人指導員の配置が効果的である。	H23 決算	4,395
				H24 予算	4,423
			【課題を踏まえ25年度の対応】 ・来年度へ向けて、外国人指導員の配置について予算及び人材の確保について検討する。	H24 決算	4,410
				H25 予算	4,426
⑤	学校教育を担う人材の育成支援事業	・教職員研修支援業務 各学校の校内研修会の開催の支援をした。教職員の資質向上支援のため、各種教職員の所属する専門性を高める研修会の負担金を補助を行い、教育課題に対応できるよう各種研修会を開催し、資質向上に努めた。	【取組への課題】 ・24年度においてセクハラ及び体罰の不祥事が発生した。	H23 決算	928
				H24 予算	938
			【課題を踏まえ25年度の対応】 ・OJTや研修の充実させ、教職員の資質向上を図る。	H24 決算	816
				H25 予算	932
合 計				H23 決算	32,452
				H24 予算	28,996
				H24 決算	28,659
				H25 予算	31,284

施策評価シート

1. 施策の情報整理

施 策 名		学習環境の充実					
現状と課題		町の人口減少と共に少子化による児童・生徒数の減少が予測される中、学校運営や教育活動など子どもたちへの教育の影響の大きさが懸念される。児童生徒及び教職員がより良い環境で学習することができ、安心して学校生活を送れるようにするため、学校規模適正化の検討による影響を勘案した学習環境の整備が必要である。					
施策の 情報 整理	目指す成果	児童生徒及び教職員がより良い環境で学習することができ、健康面でも安心して学校生活が送れるようになっている。					
	施策の目指す成果指標及び実績	指標	現状値	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標数値の説明
		児童生徒に向けた学校評価	90.5% (H23)	93%	94%	95%	児童・生徒が学校生活を満足している割合
	89%			(実績)	(実績)		
	成果目標の達成度(★★★)	★★	目標を達成(100%) ★★ 目標をほぼ達成(80%以上) ★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —	施策の事業費 (上段:最終予算) (下段:決算額)		58,393 千円	
						54,541 千円	
	達成度の理由	学校評価における児童・生徒アンケートから、「学校生活を満足している」ことに関連した質問に対する各校の割合の平均が89%であり、成果指標の8割以上を達成していることから、「ほぼ達成」と評価した。					
	設定成果指標以外に現れた成果の説明						
	外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	・食物アレルギーを持つ児童生徒のアナフィラキシーショックに対する対応					
住民との協働や他課の事業との連携	・健康保険課(食育・歯科保健指導) ・教育総務課(施設管理)						

2. 事務事業の取り組み

(単位:千円)

事務事業名		平成24年度の実績	事業の評価(取組の課題及び今後の課題への対応)		事業費
① 学習環境整備事業		・教科書採択及び教科書給与業務 教科書の給与業務を適切に行った。 ・教材備品・理科教育等設備備品整備業務 中学校教科用教材備品を購入した。緊急経済対策を活用し理科振興備品購入について増額補正を行った。 ・補助金交付業務→執行なし。 ・学校教育振興・運営業務 各学校へ予算配当し適切に執行管理を行った。	【取組への課題】 緊急経済対策を活用した理科振興備品購入については、25年度へ繰り越して執行する。	H23 決算	16,994
				H24 予算	23,193
			【課題を踏まえ25年度の対応】 各校の要望内容と新指導要領に基づく重点備品との調整を図り、早期に予算を執行する。	H24 決算	19,693
				H25 予算	12,270
② 学校保健衛生事業		・定期健康診断業務・生活習慣病予防健診業務 児童生徒に内科検診・歯科検診・眼科検診・耳鼻科検診・ぎょう虫卵検査・脊柱側弯症検診・心電図検査・結核検診・尿検査を実施した。 中学1年生、小学校5年生に生活習慣病予防健診を行った。 ・学校保健に関する業務 栄町学校保健会の事務局として学校医、学校歯科医の健診の日程調整を行った。 ・学校衛生管理業務 学校給食の配膳に関わる学校用務員の細菌検査を行った。夏休み中に学校配膳室の害虫駆除を実施した。 ・災害共済給付に関する業務 学校の管理下の児童生徒の災害に対応する日本スポーツ振興センターの掛金の納付、給付金の請求事務を正確に処理した。	【取組への課題】 ・定期健康診断で再検が必要となった児童生徒についての初診料負担が生じる医療機関と生じない医療機関がある。 ・学校現場における保健意識の向上	H23 決算	7,386
				H24 予算	7,490
			【課題を踏まえ25年度の対応】 ・健診結果の通知の様式を統一し医師の署名欄を設け、紹介状扱いとしてもらうことで、初診料の負担が生じないよう関係医療機関と調整する。 ・養護教諭、一般教諭を対象に研修会を開催する。	H24 決算	7,269
				H25 予算	7,681

③	就学支援事業	・要保護及び準要保護児童生徒就学援助業務 学校教育法に基づき、経済的理由により就学困難と認められる児童生徒の保護者に対し、教育委員会会議で認定を受け、必要な援助を行った。 ・特別支援教育就学奨励業務 特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者に対し、経済的負担を軽減するため、負担の能力に応じ、就学に必要な援助を行った。	【取組への課題】 ・国の要綱に定められている全ての項目について支援を行っているわけではない。	H23 決算	6,542
				H24 予算	5,602
			【課題を踏まえ25年度の対応】 ・他市町村の状況を踏まえ、支援の拡大について検討する。準要保護児童については、単独事業となるため、財政と協議する。	H24 決算	5,471
				H25 予算	6,992
④	私立幼稚園就園奨励費補助事業	・私立幼稚園就園奨励費補助業務 私立幼稚園に通園している町内在住の園児の保護者に対し、経済的負担を軽減するため、負担能力の程度（世帯構成と町民税所得割課税を確認）に応じ、保育料の所要経費の一部を補助した。	【取組への課題】 就園奨励費について、年少扶養控除廃止の影響をできる限り排除するため、世帯階層の認定について国の基準が改正される。	H23 決算	23,425
				H24 予算	22,108
			【課題を踏まえ25年度の対応】 国の基準の改正を踏まえ、適切に対応していく。	H24 決算	22,108
				H25 予算	27,977
⑤	就学事務の適正化推進事業	・通学区域に関する業務 ・就学時健康診断業務 学校教育法に基づき、就学指定校の変更、区域外就学に関する業務、入学通知に関する業務を適切に行った。小学校への就学前児童の就学時健康診断に関する事務についても、入学通知業務同様に転出入の管理をして正確に行った。就学に関わる事務を適切に行った。 ・学籍管理・学校の就学に関する業務 ・学齢簿に関する業務 学齢簿に関する業務として、就学予定者と転入児童生徒の学齢簿を新規に作成した。また、転出入児童生徒の学齢簿記載事項の変更について、加除訂正を適切に行い、該当校長に通知した。児童生徒の転入・転退学の管理事務を適切に行った。 ・各種調査研究・統計に関する業務	【取組への課題】 ・小中学校の統廃合に伴う通学区域の変更を行う必要がある。	H23 決算	0
				H24 予算	0
			【課題を踏まえ25年度の対応】 ・小中学校設置条例の改正後に、通学区域の変更を行う。	H24 決算	0
				H25 予算	0
合 計				H23 決算	54,347
				H24 予算	58,393
				H24 決算	54,541
				H25 予算	54,920

施策評価シート								
1. 施策の情報整理								
施 策 名		学校給食の充実						
現状と課題		栄養士が中心となり、栄養指導を実施しているが、献立により残菜に大きな差が生じている。調理場施設・設備の経年劣化により、修繕箇所が年々増加している。給食費の滞納が発生しており、保護者負担の公平性が求められている。						
施策の 情報 整理	目指す成果		児童・生徒やその保護者が、給食の安全性や、栄養バランスの大切さ、地元生産者の食材利用について理解し、残さずに食べようという意識が育っている。					
	施策の目指す成果指標及び実績		現状値	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標数値の説明	
		児童・生徒の給食を食べた量の割合(%)	78% (H23)	90%	90%	90%	供給量に対する残菜の量	
	成果目標の達成度(★★★)	★★	目標を達成(100%) 目標をほぼ達成(80%以上) 目標を達成していない 現時点では判定できない	★★★ ★★ ★ —	施策の事業費 (上段:最終予算) (下段:決算額)		153,508 千円	
							151,928 千円	
	達成度の理由	各学校に栄養指導に入り、児童・生徒だけではなく試食会等を活用し保護者への食の指導を行い、食習慣を見直してもらう機会を設けた。目標値には至らなかったが前年度よりは残菜率は減少している。また、各小中学校における残菜率には差異があるため各校の残菜率を精査し目標値に反映させる必要がある。						
	設定成果指標以外に現れた成果の説明							
	外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	施設維持管理事業:調理場内の設備の老朽化が懸念されるため、点検結果等により、適正な修繕を計画的に進めていく。 給食費徴収事業:督促や催告をしても徴収のできない悪質な未納者に対して、法的措置を考えていく。 給食事業:元気さかえ食育推進プランにより、学校、家庭、地域が一体となり子ども達が自らの食について考え、選択する判断力を身につけさせ、生涯を通じて健全な食生活をおくれるよう指導していくことで、残菜量を確実に減らしていく。また、安全で安心な給食サービスを提供するため食材の放射性物質検査を継続して実施する。 食物アレルギーを持つ児童生徒のアナフィラキシーショックに対する対応が求められている						
	住民との協働や他課の事業との連携	産業課(地産地消での連携)						
2. 事務事業の取り組み								
(単位:千円)								
事務事業名		平成24年度の取組実績		事業の評価(取組の課題及び今後の課題への対応)			事業費	
①	施設維持管理事業	定期点検以外にも、施設・設備の点検を頻繁に行うことで修繕箇所の早期発見に努め、計画的な修繕を実施した。		【取組への課題】 厨房機器において更新時期が迫ってきている機種が複数あり、今後計画的に順次入替を行っていく必要がある。		H23 決算	8,007	
						H24 予算	4,504	
						H24 決算	4,424	
						H25 予算	24,442	
②	給食費徴収事業	給食費の適正な賦課を行い、未納者には督促・催告、臨戸徴収等を実施し、滞納額の減少に努めた。また、子ども手当からの徴収も行った。		【取組への課題】 未納者への督促・催告、臨戸徴収等を実施したが、収納率の向上が見られなかった。		H23 決算	129	
						H24 予算	172	
						H24 決算	133	
						H25 予算	155	
③	給食事業	徹底した衛生管理のもと、安全で安心な給食を提供した。また、栄養指導により、たくさんの種類の食材を偏りなく食べることの大切さについて、指導を行った。 給食指導:小中学校各1回訪問(1学期中) 栄養指導:小中学校各4～6回(2・3学期)		【取組への課題】 栄養指導等により、残菜の減少に努めたが、結果的に摂取率の向上が見られなかった。		H23 決算	145,192	
						H24 予算	148,832	
						H24 決算	147,371	
						H25 予算	144,115	
合 計						H23 決算	153,328	
						H24 予算	153,508	
						H24 決算	151,928	
						H25 予算	168,712	

学識経験者の意見（基本方針（１）について）

【施策名：教育行政の充実】

- ・統合に関して、答申の中ではスクールバスの運行について、平成２４年度、２５年度に経路、時間等のシュミレーション、平成２６年度に保護者に周知の予定になっているが、進捗状況はどうか。
- ・住民との協働や他課の事業との連携欄中、学校統合により導入されるスクールバス運行について、登下校時の交通安全・防犯などに万全を期してほしい。特に、下校時、部活動や課外活動に支障のないようきめ細かな対応をお願いしたい。（保護者、ＰＴＡに負担をかけぬよう配慮されたい。）
- ・成果指標はどうおくかによって評価が異なってくる。平成２４年度８３％に対し、６７％、平成２５年度９１％、平成２６年度１００％と指標が高くなっているが、どのように設定しているのか。
- ・平成２６年度に実績が１００％に達した場合、次の年度はどうするのか。
- ・統廃合が進んで平成２７年度に行われる。布鎌小は小規模ではあるが、布鎌小の今後の見通しはどうか。

【施策名：学校施設の整備】

- ・平成２７年度廃校の決まっている北辺田小の耐震化工事は計画どおり実施されたのだろうが、限られた予算を有効に活用する施策は他にもあったのではと思う。
- ・昨今の温暖化（熱中症）対策として、空調（エアコン）の導入も考えてほしい。
- ・栄東中の跡地が県立支援学校として利用されることは聞いているが、北辺田小、酒直小はまだ決まっていない。跡地利用が決まったら、各地区にも周知してほしい。
- ・北辺田小の耐震化が今年度中に完了することで、安全が確保されてよかった。
- ・トイレが洋式化する（男子トイレも含めて）のはとてもよい。どんどん進めてほしい。和式を残すことも大賛成である。
- ・ＬＥＤ照明に替えることで、経費はかなり節減できるので賛成である。ぜひ、進めてほしい。
- ・安食小の校舎を建て替える計画はあるのか。（長寿命化の予定はいつか。）
- ・プール改修の見通しはどうか。町民プール（竜角寺台）の他にもう１か所あると、子どもたちの移動時間が削減されるのではないか。
- ・成果指標が耐震化率のみとなっているが、他にもやらなければいけないことがあるので、来年度以降の指標は変えた方がよいのではないか。

【施策名：特色ある学校づくりの支援】

- ・③栄っ子夢・元気プロジェクト推進事業のような、地域で子ども達を支援する活動は、区・自治会・老人会などの協力を仰ぎ進めてほしい。
- ・開かれた学校づくりの保護者アンケートで、肯定的な評価が９３％に達したことはすばらしい。このまま進めてほしい。
- ・統合の進捗状況はどうか。
- ・学校の統廃合に関して、「自分たちの学校がなくなるのは、正直言ってくやしい気持ち

がある。」という、栄東中の生徒がいた。吸収合併ではなく、新しい学校ができるということをもってもらえるよう平成27年まで進めていってほしい。栄東中・酒直小・北辺田小の子どもたちの心のケアを十分にすることが必要である。(学校同士では交流を図り、スムーズに統合できるように努力していると聞いている。)

- ・住民との協働や他課の事業との連携の中で、竜角寺台小、安食小、北辺田小において、学校、家庭、地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育む体制づくりの実現に向けて、学校と地域の連携を図り、学校教育を支援する仕組みづくりを進めることができた、とあるが、他の3校(安食台小、布鎌小、酒直小)について将来的にでもこのように進む予定はあるか。
- ・特色ある学校づくり推進事業の中で[取組への課題]として、現在の学校評議員意見聴取報告書では、学校の対応が把握できない。とあるがどういうことか。
- ・学校に対する支援ボランティアが行われているが、実際に活動する人間が限られてくる傾向がある。

【施策名：きめ細やかな学校教育の推進】

- ・学力向上プラン推進事業の成果が見える。目標達成に向けよろしくお願ひしたい。
- ・施策全体の予算が30,000千円位だが、この程度の予算で事業を進めていけるのか。
- ・①学力向上プラン推進事業中、栄町学力向上推進事業が成果を上げてきている点が素晴らしい。学力スタンダードの英語編が作成されるなど、内容も充実してきている。これから先、何年かごとに見直して、改善を図るとさらによいと思われる。
- ・①学力向上プラン推進事業中、わくわくドラム(栄町学習道場)は子どもたちが増えて盛況だが、[課題を踏まえ25年度の対応]中の、サタデーわくドラもこのまま続けていくのか。
- ・①学力向上プラン推進事業中、[課題を踏まえ25年度の対応]中の、放課後の学習サポーター派遣事業は、人材の確保が課題になると思うがどのような方があたっているのか。
- ・③豊かな心、健やかな体づくり教育推進事業中、[取組への課題]として、スクールカウンセラーの必要性が高まっているというが、どのくらい配置されているか。
- ・④国際化に対応した人間教育事業中、[取組への課題]として、外国人指導員の配置が効果的とあるが、確保できそうか。

【施策名：学習環境の充実】

- ・統合により、いじめなど生じぬようメンタル面のケアの充実を図ってほしい。
- ・外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるものにあるように、食物アレルギーを持つ児童生徒のアナフィラキシーショックに対しては十分な対策をとることが必要である。給食時など、かなりの人手もいるので支援員等の配置があるとよい。
- ・②学校保健衛生事業中、定期健康診断で、栄町として大きな問題はないか。生活習慣病はどうか。
- ・③就学支援事業中、[取組への課題]として、国の要綱に定められている全ての項目について支援を行っているわけではない。とあるが、どういうことか。

- ・ ③就学支援事業中、要保護、準要保護の児童・生徒の状況はどうか。

【施策名：学校給食の充実】

- ・ 自然あふれる環境を活かし、地元農家とも協力しながら作物を作り収穫したものを調理し食べる“食育”の充実を図り、残菜率を一桁以内に抑えるよう頑張ってもらいたい。
- ・ 給食のメニューは栄養士と相談して作成しているだろうが、アンケートなどをもって子どもたちの要望をとり入れるなどの取組みはしているのか。
- ・ 給食センターとしての経営はどうか。社会福祉協議会などはお弁当を買って、高齢者などに配っているが、給食センターの空いている時間を使ってつくることなどとはできないか。
- ・ ②給食徴収事業中、給食費の未納はどのくらいの世帯があるのか。
- ・ 前年度より残菜の率が減っているのはとてもよい。このまま続けていけば、減っていくのでがんばってもらいたい。
- ・ ③給食事業中、栄養士の各学校における栄養指導は効果的なのでぜひ続けてほしい。
- ・ 予算のこともあるが、子どもたちが“食べたい！”と思える、おいしくて魅力的な給食にしてほしい。
- ・ 地産池消の推進を進めてほしい。栄町産のものはどのくらいの割合で出しているのか。
- ・ ②給食徴収事業中、悪質な給食費未納者に対して、法的な措置をとっているか。いろいろな手立てを講じて徴収するようにしてほしい。

学識経験者からの意見を受けて今後の取組みについて

教育総務課より

【施策名：教育行政の充実】

- ・統合に関してのスクールバスの運行については、統合準備委員会を設置し、関係小中学校の教頭と通学ルート、乗降場所及び運行時間についてシュミレーションを実施しました。また、PTA役員等に運行経路、時間等の教育委員会（案）を提示したところがあります。今後、詳細については学校、保護者等と連携を図り進めてまいります。
- ・成果指標の設定については、教育委員会所管の主要事業 12 施策について目標達成した割合です。施策事業目標を達成した場合は、施策の見直しを行い、新たな実施計画を策定するものです。

【施策名：学校施設の整備】

- ・公立学校の耐震化については、平成 27 年度までのできるだけ早期の耐震化の完了を目指すとしている「公立の義務教育諸学校等施設の整備に関する施設整備基本方針」を踏まえ耐震化を推進いたします。
- ・学校施設は子どもの学習・生活の場であるとともに、災害時には地域住民の避難場所としての役割を果たすことから、その安全性の確保は極めて重要であると考えており、今後も安全確保に努めてまいります。
- ・厳しい財政状況の下では、改築（建て替え）より安価な長寿命化改修へと転換することが必要であります。その際、施設の耐久性を高めるとともに近年の教育内容、方法への適応や省エネ化、バリアフリー化など現代の社会的要請に応じた整備を行うことは重要であることから検討してまいります。

学校教育課より

【施策名：特色ある学校づくりの支援】

- ・学校規模適正化方針に基づき統合準備委員会を設置し、平成 27 年度からの小学校 3 校統合、中学校 2 校統合が円滑に進むよう、重点事業として小中学校再編事業に取り組んでまいります。

統合にあたって、生徒たちの心情にも配慮し、廃校、吸収といったマイナスのイメージではなく、あくまでも再編により新しい学校での生活が始まるとの意識を持って平成 27 年 4 月を迎えることができるよう、交流事業もさらに充実させていけるよう努めてまいります。

- ・学校から提出される学校評議員意見聴取報告書の様式に学校評議員会で出された意見に対しての学校の対応を記述する欄を設け、教育委員会として、各学校における地域の要望を踏まえた開かれた学校づくりの推進状況を適切に把握していくよう努めてまいります。

- ・特色ある学校づくりのために引き続き保護者や地域住民と学校の連携を進めてまいります。しかしながら、学校と地域の連携の在り方には様々あり、あくまでも地域主導で地域の方々がやりやすい形で取り組んでいただくことが、息の長い学校と地域の連携には一番大切なことでもありますので、必ずしも学校地域支援本部の設立による学校を支

援するボランティアの組織化にこだわるものではありません。

教育委員会といたしましては、引き続き地域の実情に応じて学校地域学支援本部事業を推進してまいります。

また、既設の学校地域支援本部について、地域コーディネーターと協力して、地域で活動する団体（老人クラブ・自治会・サークル）に対して事業PRなど情報発信を行い、人材確保に努めてまいります。

【施策名：きめ細やかな学校教育の推進】

・本施策の平成24年度の決算額は28,659千円で、そのうちの9割が学校支援教員、介助員、学校司書などの賃金、共済費など人件費に係る支出となっております。各学校の要望には100%応えられておりませんが、厳しい財政状況のなか、限られた予算のなかで、できる限り人員を確保してきめ細やかな教育の推進を図ってまいります。

・今年10月から施行的に開始したサタデーわくドラについては、文部科学省「土曜授業に関する検討チーム」中間まとめ(平成25年6月28日)において、学校、家庭、地域の三者が連携し、役割分担しながら、学校における授業、地域における多様な学習や体験活動の機会の充実などに取り組むことにより、土曜日の教育環境を豊かにするものにすることが必要との考え方が示されたところであり、継続して実施していきたいと考えております。

・今年9月から開始した学習サポーター派遣事業については、夏休みに実施している栄町学習道場「わくわくドラム」に協力して頂いた教員資格を有するボランティアの方をお願いしております。なお、同事業は県の事業であり、派遣を県内他市町村で派遣を希望する学校が多数あり、来年度も継続して実施できるかどうかは流動的ではありますが今後も要望してまいります。

・スクールカウンセラーは、小学校6校に月1回（6時間／回）、中学校2校に週1回（6時間／回）を基準として配置しております。スクールカウンセラーの業務は児童生徒に対する相談のほか、保護者及び教職員に対する相談、事件・事故等の緊急対応における被害児童生徒の心のケアなど、学校教育相談体制に大きな役割を果たしております。

・小学校への外国人指導員の配置については、現在小学校5年生から必修化されている外国語活動が小学校3年生からに前倒しされ、5年生からは正式な教科に格上げされる動きもあることを踏まえ、学習指導要領の改訂の動きを注視しながら、検討してまいります。

【施策名：学習環境の充実】

・アナフィラキシーショックに対する対応としては、養護教諭その他子どもに関わる職員等を対象としてエピペンの使用に関する研修会を開催するとともに、食物アレルギーと診断された児童生徒の保護者には、緊急事態の際に救急隊が当該児童生徒の情報をすぐに把握することができる「栄町安心カード」を所持するよう勧奨していきます。

・定期健康診断及び生活習慣病予防検診においては、特に問題となる児童生徒はいませんでした。今後も注視してまいります。

・就学援助費については、文部科学省が支給基準を定めていますが、実際に支給する項目は教育委員会が決定することとなっています。栄町の支給項目を印旛管内の他市町と

比較したところ、ほぼ同じであり、文部科学省の定める項目の全てを支給している市町はありません。他市町の動向を踏まえたうえで、教育委員会としての対応を検討してまいります。

【施策名：学校給食の充実】

- ・学校給食を実施するにあたっては、学校給食法第2条に基づく基本目標を達成すべく、児童生徒への安心・安全な給食の提供を図る必要があることから、センターでは学校への給食提供のみを業務として実施しており、今後も、そのためのセンター機能の維持管理、調理場内の衛生管理、異物混入防止等の徹底を図ってまいります。
- ・現在2割ある給食の残菜については、子どもたちに実施している給食メニューのアンケートをとり、自分の提案したメニューが採用されるわくわく感による食事の楽しさを深めるとともに、栄養指導・給食指導による食事の重要性、そして現在実施している栄町産の食材の利用を今後も推進することで「食」への関心を高めていく「食育」の展開により、減少させていくよう努力してまいります。
- ・給食賄材料費の財源となる利用者負担金（給食費）の未納問題に関しては、現在の収納率98パーセントをさらに上げていくため、学校と連携し適切な収納を実施してまいります。

基本方針（２）

生涯学習とスポーツを通して、心身ともに健康で生きがいのある生活と心のかよう地域社会をつくとともに、地域の教育力を生かした子どもたちの健全育成を推進します。

【施 策 名】

- ・生涯学習環境の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 1 8
- ・生涯学習資料の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 1 9
- ・スポーツ振興事業の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2 0

○学識経験者の意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2 1～P 2 2

○学識経験者からの意見を受けて今後の取組みについて・・・P 2 3



施策評価シート

1. 施策の情報整理

施 策 名		生涯学習環境の充実					
現状と課題		・家庭や地域の教育力の低下が指摘されており、次代のまちづくりを担う子どもたちが豊かな人間性を育むことができるよう、学校・家庭・地域は、「学び」や「育ち」を支えるためのそれぞれの役割と責任を自覚し、相互の連携と協力のもとに地域全体が積極的に関わっていく体制を構築する必要がある。 ・趣味や関心に基づく個人的な学習活動のみならず、社会的な課題に取り組む学習を支援するため、民間事業者等の活動のみでは得られない学習機会や情報を、行政が積極的に提供する必要がある。 ・協働のまちづくりを視野に入れ、学習成果を地域に還元する取組を支援することが重要となっている。					
施策の 情報 整理	目指す成果	「個々のニーズ」や「社会変化への要請」に応じた学習機会が提供され、町民は学習した成果を個々の生活や地域の教育活動に生かしている。					
	施策の目指す成果 指標及び実績	指標	現状値	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標数値の説明
		生涯学習ボランティア登録者数	666人 (H23)	670人	700人	710人	学習アドバイザー／図書・文化ホールボランティア／ふれあい推進委員 ／こども110番協力家庭
	成果目標の達成度 (★★★★)	★★★★	目標を達成(100%)★★★★ 目標をほぼ達成(80%以上)★★ 目標を達成していない★ 現時点では判定できない—			施策の事業費 (上段:最終予算) (下段:決算額)	1,899 千円
			1,818 千円				
	達成度の理由	特に、青少年の健全育成のため、各小学校区でのふれあい推進委員会をはじめ、青少年相談員や子ども会など、子どもたちを見守り育む関係団体の活動は、構成員の増減に関係なく多様な取組が行われており、それぞれの役割を十分果たしている。					
	設定成果指標以外に現れた成果の説明	・ドラム自然楽校の参加児童・保護者に行ったアンケートでは、「子どもたちの様子や家庭での過ごし方などが変化した」という回答が5割を超えた。 ・各講座受講者に対し受講アンケートを行ったところ、受講した満足度が全体で95%という高い結果となった。 ・講座参加者による新たなサークル団体が1つ発足した。					
	外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	・地域の教育資源(人材・文化・自然等)の有効活用 ・家庭や地域と連携した安全安心の確保 ・学校統廃合に向けた子どもたちへの交流機会の提供と活動支援 ・多様な学習情報の提供					
	住民との協働や他課の事業との連携	当施策の事業は、全て関係団体との協働なくして進めることができないものであり、特に新規事業である「放課後ふれあい教室」と「ドラム自然楽校」では、地域のふれあい推進委員会や青少年関係団体、さらには地域のボランティアの活用により、子どもたちへの学習、遊び、体験などの機会を充実させることができた。					

2. 事務事業の取り組み

(単位:千円)

事務事業名		平成24年度の取組実績	事業の評価(取組の課題及び今後の課題への対応)		事業費	
① 地域教育力活用・支援事業		青少年の健全育成のため、学校・家庭・地域が連携を図り、以下の取り組みを推進した。 ・家庭教育学級の支援 (31回開催:参加者1,709人) ・こども110番活動の推進 (登録世帯数:467戸) ・PTA活動の支援 ・子ども会育成連絡協議会活動の支援 (16回開催:参加者433人) ・青少年相談員活動の支援 (20回開催:参加者172人) ・地域ふれあい交流事業の推進 (25回開催:参加者1,064人) ・放課後ふれあい教室の運営 (2校:参加者229人) ・自然体験活動の推進 (11回開催:参加者414人) ・成人式の開催(参加者158人)	【取組への課題】 参加した子どもたちの様子や家庭での過ごし方などが変化したと振り返ることができるような事業展開を目指す。	H23 決算	1,706	
				H24 予算	1,653	
			【課題を踏まえ25年度の対応】 放課後ふれあい教室を月2回に増やすなど、体験機会を充実させるとともに、コーディネーターやアドバイザーの方々へ県等が実施する各種研修の受講を積極的に薦め、教育活動に携わる指導者の資質向上を図る。	H24 決算	1,575	
				H25 予算	2,691	
② 生涯学習推進事業		いきいき塾さかえ講座の受講者に対して行ったアンケートでは、受講満足度が全体で95%という結果となった。 また、成田空港圏である町の立地特性やグローバル化といった社会的課題へ対応するため、異文化体験を通した国際理解の促進を図ることを目的に、ユニセフ協会とのタイアップにより国際理解講座を新たに企画した。	【取組への課題】 団塊の世代の活動支援や再チャレンジ支援など、社会的な課題に対応した更なる学習機会の提供	H23 決算	242	
				H24 予算	246	
			【課題を踏まえ25年度の対応】 各種学習講座、イベントの開催や学習情報の積極的な発信 魅力ある講座の開催による受講者満足度の向上	H24 決算	243	
				H25 予算	320	
合 計				H23 決算	1,948	
				H24 予算	1,899	
				H24 決算	1,818	
				H25 予算	3,011	

施策評価シート

1. 施策の情報整理

施 策 名		生涯学習資料の充実					
現状と課題		・町民一人ひとりが自分にあった主体的な学習活動を継続して行うためには、様々な知識や情報が適切に入手できるような環境整備が求められており、本町の学習拠点であるふれあいプラザ内図書室は重要な役割を担っている。 ・地域の課題解決や生活上の問題解決に必要な情報を町民ニーズを捉えながら提供していく必要がある。 ・学習活動が様々な場所・方法によって実施されていることから、多様な関係者・関係機関が連携しネットワークを効果的に構築するための仕組みづくりを行う必要がある。					
施策の情報整理	目指す成果	図書資料等を活用した学習や、さまざまな分野から得られる学習情報等を通じて、町民は町内のあらゆるところで自分にあった学習を行っている。					
	施策の目指す成果指標及び実績	指標	現状値	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標数値の説明
		図書等サービス利用者数	15,004人 (H23)	15,000人 18,288人	18,408人 (実績)	18,528人 (実績)	図書室利用者数／視聴覚教材利用者数／読書教育参加者数
	成果目標の達成度 (★★★)	★★★	目標を達成(100%) ★★★★★ 目標をほぼ達成(80%以上) ★★★★★ 目標を達成していない ★★★★★ 現時点では判定できない —			施策の事業費 (上段:最終予算) (下段:決算額)	4,216 千円 4,202 千円
	達成度の理由	図書室利用者数に限っても、H23=12,975人、H24=15,065人と対前年116%の大幅な伸びとなり、比例して貸出冊数も増加傾向にある。					
	設定成果指標以外に現れた成果の説明						
	外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	・レファレンスサービスの充実と利用の促進 「地域や住民にとって役立つ図書室」となり、地域の発展に欠かせない施設としての存在意義の確立を目指すために、レファレンスサービスの充実と利用の促進を図ることはもとより、地域の課題解決や生活上の問題解決に必要な資料・情報を積極的に提供し、地域や町民の課題解決を支援していく。 ・児童サービスの充実 子どもの読書活動や学習活動を支援する観点から、図書室ボランティアとの連携を深めていくとともに、学校図書館への支援を積極的に行っていく。					
住民との協働や他課の事業との連携	子どもたちが絵本・おはなし・映画に親しみ、心豊かな感性を育みながら読書に慣れ親しむよう、図書室ボランティア(おはなしの会・人形劇バレット)や映写ボランティアと連携し、おはなし会や人形劇などの読書普及活動を展開した。						

2. 事務事業の取り組み

(単位:千円)

事務事業名		平成24年度の取組実績	事業の評価(取組の課題及び今後の課題への対応)	事業費	
① 図書室管理運営事業		中高校生の利用促進を図るため、新たにヤングアダルト本コーナーを設置し、関連蔵書を充実させたほか、学校図書館との連携強化により団体貸出しを促進し、子どもたちの読書活動の支援に努めた。	【取組への課題】 あらゆる年代の町民に対してより身近で便利な図書室とするためには、郷土資料や行政資料などの地域情報に係る蔵書の充実を図る必要がある。	H23 決算	4,842
			【課題を踏まえ25年度の対応】 文化財担当者との連携し、現在所蔵している地域の歴史的・文化的資料を整理し、郷土資料コーナーを充実させる。	H24 予算	4,216
				H24 決算	4,202
				H25 予算	4,329
② 読書教育事業		図書ボランティアによる本の読み聞かせ会、おはなし会、人形劇公演を開催した。(延べ来場400人) 学校に調べ学習や朝読書用の本の貸出を行うとともに、学校図書館司書を対象としたスキルアップ研修会を3回開催した。	【取組への課題】 学校図書館司書が1年ごとに交代するため、十分な連携を図ることができない。	H23 決算	80
			【課題を踏まえ25年度の対応】 学校教育担当課と調整したうえで、司書研修会を計画的・継続的に実施する。	H24 予算	0
				H24 決算	0
				H25 予算	0
合 計				H23 決算	4,922
				H24 予算	4,216
				H24 決算	4,202
				H25 予算	4,329

施策評価シート										
1. 施策の情報整理										
施 策 名		スポーツ振興事業の充実								
現状と課題		スポーツイベントを中心に町民が気軽にスポーツを楽しめる機会を増やしていこうと試みている。少子高齢化の影響もあり、既存のスポーツ団体の活動が衰退傾向にあるので、スポーツ団体の活動の活性化が今後の大きな課題となる。								
施策の情報整理	目指す成果		町民が身近なところで楽しみながらスポーツに慣れ親しんでいる。							
	施策の目指す成果指標及び実績	指標	現状値	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標数値の説明			
		体育施設利用件数	3,164件 (H23)	4,500件	6,000件	7,000件	体育施設利用件数 スポーツ大会等参加者数			
				4,807件	(実績)	(実績)				
		スポーツ大会等参加者数	3,861人 (H23)	7,000人	8,000人	10,000人				
	7,321人			(実績)	(実績)					
	成果目標の達成度 (★★★★)	★★★★	目標を達成(100%)★★★★ 目標をほぼ達成(80%以上)★★★ 目標を達成していない★ 現時点では判定できない—			施策の事業費 (上段:最終予算) (下段:決算額)		10,449 千円		
								9,232 千円		
	達成度の理由		成果を上げたものもあるが、横ばいや減少傾向のスポーツ活動もある。							
	設定成果指標以外に現れた成果の説明		成果指標について、件数と人数が混同していたため、体育施設の利用件数とスポーツ大会等参加人数に指標を改めた。							
外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの		スポーツ活動に参加している顔ぶれがあまり変わらず、町内のスポーツ活動は横ばいから減少傾向気味にあると推測される。今後は、住民ニーズや時代の変化を的確に捉え、より多くの人々に参加してもらえる事業活動となるよう検討を進める。また、町外からも広く参加者を募り、参加者を増やすことにより活気あるスポーツイベントとすることで町民のスポーツ活動に対する意識を刺激し参加を促進するとともに、スポーツ活動が地域の活性化につながるよう事業内容の検討を進める。								
住民との協働や他課の事業との連携		スポーツ推進委員・体育協会・住民活動団体と連携し各種の教室やスポーツ大会を開催する。特に、リバーサイドマラソンについては、各種スポーツ団体他、教育委員会関連団体をはじめ職員の協力により事業を実施する。								
2. 事務事業の取り組み										
(単位:千円)										
事務事業名		平成24年度の取組実績		事業の評価(取組の課題及び今後の課題への対応)				事業費		
①	スポーツ・レクリエーション交流事業	スポーツ等を通じた交流づくりを推進する。 軽スポーツ教室、ゴルフ大会、相撲大会などの開催	【取組への課題】 従来のスポーツ活動では新たな参加者の獲得があまり見込めないことから、新しい種目や運営形態の検討を進め、参加者獲得に努める。 【課題を踏まえ25年度の対応】 新しい種目の軽スポーツ(ショートテニス)の普及活動を始め、新たな広がりを見せ始めている。また、ゴルフの地区別交流戦や相撲大会など地域との連携を意識した活動を展開していく。	H23 決算			733			
				H24 予算			806			
				H24 決算			774			
				H25 予算			704			
②	スポーツ競技力向上事業	専門競技の技術力を高める支援を行う。 印旛郡市民体育大会・印旛駅伝競走参加リバーサイドマラソンの開催	【取組への課題】 各専門部の活動が衰退傾向にある専門部もあることから、連携して活性化を図る必要がある。 【課題を踏まえ25年度の対応】 マラソン大会の参加者獲得に努め、町内のスポーツ活動の活性化につなげたい。また、体育協会各専門部の活動支援を積極的に行い、地域スポーツコミュニティの再構築を図る。	H23 決算			2,194			
				H24 予算			1,920			
				H24 決算			1,905			
				H25 予算			2,011			
③	生涯スポーツ環境整備事業	スポーツ施設の適切な管理を行う。 ①水と緑の運動広場野球場・多目的広場 ②房総のむら多目的広場 ③町民運動場ABCグランド 町民プール一般開放(補修・管理) 相撲場設置工事工事(仮設) 水と緑の運動広場(野球場)補修工事	【取組への課題】 大まかな震災復旧は行ったが、スポーツ施設の維持管理体制は不十分であり、安全で気持ち良く使える施設の運営を第一に管理体制の検討を進める。 【課題を踏まえ25年度の対応】 水と緑の運動広場及び町民プールの修繕工事を実施するとともに、維持管理体制の検討を進める。	H23 決算			4,637			
				H24 予算			7,723			
				H24 決算			6,553			
				H25 予算			8,050			
合 計				H23 決算			7,564			
				H24 予算			10,449			
				H24 決算			9,232			
				H25 予算			10,765			

学識経験者の意見（基本方針（２）について）

【施策名：生涯学習環境の充実】

- ・パソコン教室、男の料理教室などサークル活動の充実度は素晴らしい。
- ・ドラム自然楽校はぜひ推進してほしい。各地域に手伝える人はたくさんいるので、周知してそういう人達を活用してほしい。
- ・全体的に予算が少なすぎると思うのでもっと予算をつけてもらえるようにがんばってほしい。
- ・ふれあい推進委員は地域で行う住民対象のサロン等にも協力してくれている。頑張っていることを周知してほしい。
- ・設定成果指標以外に現れた成果の説明欄中、受講アンケートの結果の満足度が95%というのはすばらしい。これからも、魅力ある講座を実施してほしい。
- ・ドラム自然楽校のネーミングも楽しいが、設定成果指標以外に現れた成果の説明欄中、ドラム自然楽校の参加児童・保護者アンケートでは「子どもたちの様子や家庭での過ごし方などが変化した」とあるが、子どもたちの変化はどのようなものがあるか。例えば、外遊びが増えたとか、自然に興味を持つようになったとかあると思うが具体的にはいかがか。
- ・②生涯学習推進事業中、[取組への課題]として、世代の活動支援や再チャレンジ支援など、社会的な課題に対応した更なる学習機会の提供とあるが、団塊の世代が多くなっている中、これからどのようなものを提供しようと考えているのか。[課題を踏まえ25年度の対応]で掲げた、魅力ある講座の開催による受講者満足度の向上は最大の課題だと思うがいかがか。
- ・ふれあい推進委員が各学校で活動しているが、お互いの活動を知る機会がなかなかない。
- ・外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるものとして、「学校統廃合に向けた子どもたちの交流機会の提供」とあるが、具体的にどのような内容か。

【施策名：生涯学習資料の充実】

- ・世間では読書ばなれが進んでいる中、図書室利用者の増加は喜ばしいが、これは延べ人数である。年代別に、小・中学生（若者）の利用率はどうか。統計をとってほしい。
- ・本以外に情報が手軽に入るようになっていく中で、若者が利用するような図書室になってほしい。
- ・魅力ある図書室には常に新しい本が入ってくる必要があるのではないかと。本には普遍的な内容のものもあれば、日々情報が新しくなっていくものもある。予算に限りはあるだろうが、蔵書の内容を見直して充実を図っていく必要がある。
- ・①図書室管理運営事業中、中高生向けの「ヤングアダルト本コーナー」の利用状況はどうか。活発な利用はあるのか。新たな試みをするのはすばらしいが、それがどのくらいの利用があるのかなど、検証して、次はシニア向けをやってみようかなどというようにいろいろな試みをするよう努力してほしい。

- ・②読書教育事業中、[取組への課題]として、学校図書館司書が１年ごとに交代するため、十分な連携を図ることができない。とあるが、１年でもどのような連携が図れるかを考えることが大切なことであり、そういう方向で考えてほしい。
- ・学校の図書購入予算が少ないので、学校単位にまとめて本を貸し出すなど、学校との関わりを考えてほしい。

【施策名：スポーツ振興事業の充実】

- ・幼・壮・老の交流を図るイベントとして、町内体育祭の復活を望む。
- ・町民が気軽にスポーツを楽しめる機会を増やすのは、健康寿命を伸ばすという面からも必要だと思われる。
- ・「スポーツ大会等参加者数」の目指す成果指数１０，０００人は多すぎないか。やっている顔ぶれは決まっている。増やすための手立てはあるのか。
- ・マラソンブームはあるが、それ以外に考えているものはあるか。

学識経験者からの意見を受けて今後の取組みについて

生涯学習課より

【施策名：生涯学習環境の充実】

- ・子どもたちに様々な体験活動を通して、健やかな体と豊かな心を育むことができるよう、子どもの成長に合わせた体験活動の機会を設けるとともに、体験活動に関する情報提供を行うなど、学校・家庭・地域が連携して体験活動を推進してまいります。
- ・町民の学習ニーズはますます多様化していることから、行政だけの対応には限界があり、今後は、町が提供する学習機会の他、様々な分野で活躍する人材や、住民活動団体等から提供される学習機会を通じて、町民があらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができる環境づくりを進めてまいります。

【施策名：生涯学習資料の充実】

- ・多くの町民が必要とする資料や情報が便利に利用できるよう、利用者のニーズを把握しながら蔵書を適切に保存・整理するとともに、利用者が求めている資料を迅速かつ的確に得られるようなサービスを充実してまいります。
- ・子どもたちが読書に慣れ親しむように、学校図書室と連携した図書資料の貸出・情報提供を行うほか、ボランティアによる読書普及活動を展開いたします。

【施策名：スポーツ振興事業の充実】

- ・町内外問わず広く参加できるスポーツイベントを開催し、町内のスポーツ環境の活性化を図るとともに、子どもから高齢者まで世代間交流を視野に入れたスポーツイベントを実施してまいります。
- また、より多くの人に気軽にスポーツを楽しめる環境づくりを進めるため、スポーツ施設以外でスポーツを楽しむことを推進し、より身近な環境にスポーツの存在を感じていただけるような取り組みなどの検討を進めてまいります。

基本方針（３）

地域に根ざした芸術・文化の育成と文化財の保護・伝承・活用を図り、個性豊かで潤いのある地域文化の醸成を図ります。

【施 策 名】

- ・文化芸術発信拠点の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2 5
- ・歴史資料の公開・活用・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2 6
- ・文化財保護の拡充・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2 7

○学識経験者の意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2 8

○学識経験者からの意見を受けて今後の取組みについて・・・ P 2 9



施策評価シート									
1. 施策の情報整理									
施 策 名		文化芸術発信拠点の充実							
現状と課題		・ふれあいプラザさかえの経年経過による施設の不具合が多く発生しており、その解消が望まれている。 ・各サークル等、文化芸術団体の会員の高齢化や会員の減少により、活動の減少が発生しており、活動支援や新規団体の育成が必要である。 ・社会環境の変化により、余暇時間を利用した、個人の趣味や学習活動が増加し、ふれあいプラザさかえに來れば、いつでも文化芸術の情報が入手でき、また多くの文化芸術に触れる機会が望まれている。							
施策 の 情 報 整 理	目指す成果		・文化芸術に触れたり、学習意欲を刺激しあう機会の提供により、町民個々がスキルアップし、心豊かにいきいきと生活している。						
	施策の目指す成果指標及び実績	指標	現状値	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標数値の説明		
		ふれあいプラザの利用人数	178,185人 (H23)	180,400人	182,200人	184,000人	ふれあいプラザさかえの年間利用人数		
	成果目標の達成度（★★★）	★★★	目標を達成(100%) ★★★ 目標をほぼ達成(80%以上) ★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —	施策の事業費 (上段:最終予算) (下段:決算額)		51,806 千円			
						51,510 千円			
	達成度の理由	・施設・設備の不具合を解消し、また子育て情報交流館アップRをセンター1階に移動したり、大会議室と工作室のスクリーンの交換、トイレ全扉に荷物掛けフックの取り付け・洋式表示をし、機能改善を実施し、利便性の向上に努め、ふれあいプラザさかえを年間292日開館した。 ・前年度の4～6月は、震災対応修繕により文化ホールの舞台が使用できなかったものが解消された。							
	設定成果指標以外に現れた成果の説明	・会議室①が2階に移動し、料金が下がったことや、会議室③の設置が認知され、センター貸し部屋の利用率が前年度の64. 1%から65. 4%に上昇した。							
外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	・各サークル等、文化芸術団体の会員の高齢化や個人の趣味や学習活動が多岐にわたり、団体会員の確保や活動の維持、及び文化ホールでの文化芸術事業の事業の選択が課題となる。								
住民との協働や他課の事業との連携	・ふれあいプラザさかえ施設管理・運営において、住民団体が敷地内花壇を整備したり、施設利用者が施設利用の際、積極的な清掃、片付けを実施。								
2. 事務事業の取り組み (単位:千円)									
事務事業名		平成24年度の取組実績		事業の評価(取組の課題及び今後の課題への対応)				事業費	
①	ふれあいプラザ施設管理・運営事業	・ふれあいプラザさかえを年間292日開館し管理・運営を実施。 ・ふれあいセンターの高架水槽・受水槽の腐食塗装剥離修繕、1階トイレ洗面器の破損修理、照明安定器修繕、非常誘導灯バッテリー・煙感知器修繕、文化ホールのスタインウェイピアノの全弦張替、ワイヤレスチューナーユニット修繕、舞台操作盤調光用ボリューム修繕等を実施。 ・会議室①とアップRの部屋の交換、大会議室と工作室のスクリーンの交換、トイレ全扉に荷物掛けフックの取り付け・洋式表示をし、機能改善を実施。		【取組への課題】 ・経年経過による施設の不具合の全ての修繕ができなかった。				H23 決算	52,746
								H24 予算	51,806
				【課題を踏まえ25年度の対応】 ・より利便性の向上と安全性の確保に努め、施設・設備の不具合の解消を図る。				H24 決算	51,510
								H25 予算	68,190
②	文化芸術振興事業	・貸館事業による文化事業を展開。 ・高校・大学の協力を得てのコンサートの開催、地元芸術家による「絵画展」を実施。		【取組への課題】 ・文化ホールを使った文化芸術公演が多く展開できなかった。				H23 決算	0
								H24 予算	0
				【課題を踏まえ25年度の対応】 ・助成制度の活用により文化ホールでのクラシックコンサートや各小学校と連携しアーティストとの交流事業を展開する。 ・高校・大学の協力を得てのコンサートを開催する。				H24 決算	0
								H25 予算	9
③	文化芸術団体支援事業	・サークル団体等の日頃の活動成果、発表する機会として栄町ふれあい文化祭を実施。		【取組への課題】 ・文化祭への参加団体が2団体増え、50団体となったが、利用サークル連絡会から年度末に3団体減少した。一部の団体では、会員の高齢化や会員の確保に苦慮している。				H23 決算	0
								H24 予算	0
				【課題を踏まえ25年度の対応】 ・栄町ふれあい文化祭を活用し、活動成果を発表し、広く団体の活動を紹介していく。				H24 決算	0
								H25 予算	0
合 計								H23 決算	52,746
								H24 予算	51,806
								H24 決算	51,510
								H25 予算	68,199

施策評価シート								
1. 施策の情報整理								
施 策 名		歴史資料の公開・活用						
現状と課題		町史編さんについては現在は凍結されており、できる調査を少しずつ進めている状況である。当面の課題として、調査の進捗の進んでいるものから、刊行するなど、刊行計基本計画の見直しが必要である。						
施策 の 情 報 整 理	目指す成果	本町の歴史、文化遺産等を史実に基づき、調査、収集及び記録し、公開することにより、町民の愛郷心を高揚させ、永く後世に伝えられている。						
	施策の目指す成果指標及び実績	指標	現状値	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標数値の説明	
		『栄町史』全15冊を計画的に刊行する。	1/15冊 (H23)	1/15冊	1/15冊	2/15冊	刊行数/計画数	
				1/15冊	(実績)	(実績)		
	成果目標の達成度(★★★)	★★★	目標を達成(100%)★★★ 目標をほぼ達成(80%以上)★★ 目標を達成していない★ 現時点では判定できない—	施策の事業費 (上段:最終予算) (下段:決算額)		216 千円		
						119 千円		
	達成度の理由	「栄町史編さん基本計画」のなかでも要望が高い『文化財社寺編』の刊行準備に着手した。						
	設定成果指標以外に現れた成果の説明							
外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	刊行計画の凍結状況の長期化に伴い、栄町史編さん委員会及び専門委員の高齢化等に係る退任が進んでいることから、今までの成果還元である『栄町史』の刊行を確実に進捗させる。							
住民との協働や他課の事業との連携	栄町古文書学習会の会員に『栄町史史料編』(近世)への掲載予定史料に係る解読筆耕作業を継続的にお願いしている。このことは、会員の生涯学習活動を通して町民各位に情報が発信され、さらなる相乗効果となっている。また、新たに発見された地域史料(棟などの下張文書)の整理保存作業を継続的に実施していただいている。							
2. 事務事業の取り組み								
(単位:千円)								
事務事業名		平成24年度の取組実績	事業の評価(取組の課題及び今後の課題への対応)				事業費	
①	町史編さん事業	度々の刊行計画の改正により刊行事業としては進捗していないが、平成26年度の刊行に向けて編集作業の準備に着手した。	【取組への課題】 刊行事業自体は凍結している。				H23 決算	90
							H24 予算	182
			【課題を踏まえ25年度の対応】 文化財社寺、民俗部会など調査の進捗しているものから刊行を図る。毎月の広報の掲載。				H24 決算	100
							H25 予算	182
②	記録史料の保存・公開事業	1.古文書等(自治組織等管理文書、民間史料)の整理保存は38組織中、12組織分が終了している。 2.歴史的公文書の整理保存作業は議会関係など一部については進捗している。	【取組への課題】 歴史的公文書整理のための作業の実施が難しい。(作業員、時間)また、地域史料整理は、基礎的作業については文化財サポーターの協力を得る。				H23 決算	36
							H24 予算	34
			【課題を踏まえ25年度の対応】 作業員・作業時間をの確保、公文書管理法に基づく例規等の整備を進め、歴史的公文書のライフサイクルを確立させる。				H24 決算	19
							H25 予算	34
合 計							H23 決算	126
							H24 予算	216
							H24 決算	119
							H25 予算	216

施策評価シート

1. 施策の情報整理

施 策 名		文化財保護の拡充						
現状と課題		・岩屋古墳・浅間山古墳の周辺は地権者が死亡している等、問題のある案件があるので、速やかな相続を支援することが課題である。また、未指定部分があるため、追加指定を目指し、残りの地権者からの指定同意書を取得する必要がある。 ・指定文化財を増やし、保護を図る必要がある。また、岩屋古墳の調査を進め、内容を確認する必要がある。						
施策の 情報 整理	目指す成果		文化財が持っている重要性への理解が深まり、後世に残すべき文化財の保護思想が形成されている。また、国史跡龍角寺古墳群・岩屋古墳の公有化が図られ、その保全・活用のため整備計画策定に必要な岩屋古墳の修復や主要な古墳の調査が実施され、その成果が活用されている。					
	施策の目指す成果指標及び実績	指標	現状値	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標数値の説明	
		龍角寺古墳群・岩屋古墳公有地化面積割合	81.4% (H23)	88.3%	91.0%	100%	岩屋古墳、浅間山古墳エリアの史跡用地の公有化率	
				88.8%	(実績)	(実績)		
		文化財活用事業の参加人数	500人 (H23)	500人	500人	500人	参加人数	
				550人	(実績)	(実績)		
	成果目標の達成度 (★★★)	★★★	目標を達成(100%) ★★★ 目標をほぼ達成(80%以上) ★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —	施策の事業費 (上段:最終予算) (下段:決算額)		85,266 千円		
						73,831 千円		
	達成度の理由		史跡の公有化については目標面積の88.8%を公有化した。					
	設定成果指標以外に現れた成果の説明		岩屋古墳の調査を行い、必要かつ重要なデータを収集した。文化財活用事業には、現地説明会、龍夢遺産紀行などを合わせ、延べ550人の参加者があった。					
外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの		岩屋古墳の発掘調査データから方墳として現在規模の確定している遺跡としては、日本一となったことから見学者の増加が見込まれるため表示板やガイドなどの対応が必要となっている。また、岩屋古墳エリアの公有化の進捗に伴い、史跡用地の環境整備(除草作業)が課題となっている。						
住民との協働や他課の事業との連携		文化財サポーター制度を拡充させて、教育委員会等が行う文化財に関するイベント等への協力や観光客等の来町者、見学者の案内・説明の協力。また、史跡等を保全するための環境整備・清掃作業への協力を進捗させる。						

2. 事務事業の取り組み

(単位:千円)

事務事業名		平成24年度の取組実績	事業の評価(取組の課題及び今後の課題への対応)		事業費	
①	文化財の保全・活用事業	開発に伴う記録保存は、その都度の事業者等と連絡、協議、調整は達成されている。岩屋古墳の発掘調査を行い、岩屋古墳の内容確認を実施した。	【取組への課題】 岩屋古墳本体の基礎的データの収集は進んでいるが、エリア内全域の埋蔵文化財調査の進捗が図れていない。	H23 決算	9,337	
				H24 予算	9,638	
			【課題を踏まえ25年度の対応】 岩屋古墳等の発掘調査を進め、今後の整備・活用に必要なデータを収集する。	H24 決算	8,744	
				H25 予算	7,356	
②	龍角寺古墳群指定・調査整備事業	岩屋古墳、浅間山古墳エリアの公有率はほぼ目標に達した。特に、浅間山古墳本体の公有化が地権者の理解を得られて取得できた。また、環境整備も緊急雇用創出事業により、木材チップ敷設による仮設遊歩道を整備することができ、見学者の便宜を図ることができた。	【取組への課題】 岩屋古墳、浅間山古墳エリア内の未指定地の追加指定を進捗させて、史跡用地の公有化を図る。	H23 決算	21,020	
				H24 予算	75,628	
			【課題を踏まえ25年度の対応】 浅間山古墳エリアの指定地の公有化を進捗させる。	H24 決算	65,087	
				H25 予算	2,078	
合 計				H23 決算	30,357	
				H24 予算	85,266	
				H24 決算	73,831	
				H25 予算	9,434	

学識経験者の意見（基本方針（３）について）

【施策名：文化芸術発信拠点の充実】

- ・ふれあいプラザの利用人数が１８９，４２５人とはたいへん喜ばしい。文化ホールは１００日以上使っていない日があると思うが、施設の稼働率向上に向け、文化ホールで一週間のうち〇曜日は映画上映の日とするなど、定期的に映画上映をすることはどうか。
- ・ふれあいプラザの施設・設備の不具合を解消して、いつでも使えるようにしたり、アップＲを１階に移動するなど、機能改善に努力していることは評価できる。
- ・文化ホールの収容人数は、１，０８６人とのことだが、何人入ると採算がとれるのか。コストが大変だと思うが、できるだけ文化芸術に親しめるようにしてほしい。
- ・今年、文化ホールで開催された催しの中で観客動員数や内容などをいろいろな面から検討し、次年度に生かすようにしてほしい。

【施策名：歴史資料の公開・活用】

- ・「栄町史」の編さんは大切な作業である。もっと予算をつけ町史編さんに携わる方々を応援していくべきである。
- ・平成２６年度刊行するのは文化財社寺編か。「栄町史」はどんな形で発刊されているのか。
- ・古文書や文化財などで整理が終了したものを展示できる「歴史資料館」のような施設をつくる計画はないのか。（廃校になる学校施設の活用も考えられる。）将来は、そこに行けば栄町のことがわかるようなところはあるのか。
- ・新たに発見されたものはあるか。また、発見されつつあるのか。
- ・古文書を研究するサークルがあるが、古文書等の歴史的資料は一度なくなってしまうと手に入らなくなるので、ぜひ整理して見せてほしい。

【施策名：文化財保護の拡充】

- ・岩屋古墳の方墳日本一をアピールすべきである。併せて、風土記の丘、ドラムの里、房総のむら、龍角寺を結ぶ観光施設プロジェクトの立ち上げ推進を町・民間協働事業の中心に据えるべきである。
- ・他地域向けの栄町ガイドブック（観光マップ）の発行し、その中に文化財の他、名物やおすすめの食べ物など入れるとよいのではないか。
- ・発掘調査で新しいものは出ているのか。現状だけでは人を呼ぶのは難しい。将来的に中に入って見られるようになるとよいのではないか。
- ・文化財活用事業の参加人数の目標指数が年度ごとに上がっていないのは残念である。目標を高くもってはどうか。
- ・岩屋古墳を詳しく説明するガイドを養成し、常駐してもらうことも考えてはどうか。そうすることによって、学校関係の見学者等も増えてくるのではないか。
- ・見学者のために遊歩道や案内板などを整備していくことも大切である。

学識経験者からの意見を受けて今後の取組みについて

生涯学習課より

【施策名：文化芸術発信拠点の充実】

・文化・芸術情報の発信や事業企画の充実を図り、文化や芸術に親しもうとする人の活動の場、情報の交換・享受の場とし、ふれあいプラザさかえの利用人数や施設の稼働率の向上に努めてまいります。また、利用者の利便性向上に向けた施設の機能改善、施設・設備の不具合の解消を実施してまいります。

【施策名：歴史資料の公開・活用】

・町史編さん事業については、文化財の保護と活用の観点及び歴史文化遺産資源として高いニーズのある「文化財・社寺」編の刊行に向けた準備を推進してまいります。
・記録史料の保存・公開事業については、地域史料（古文書など）の整理保存作業を文化財サポーターとの協働作業により推進し、生涯学習活動の利用に供せるよう目録を作成いたします。

【施策名：文化財保護の拡充】

・文化財の保全・活用事業については、岩屋古墳の発掘調査を実施して基礎的なデータの収集を推進し、今後の整備・活用を図ります。また、史跡「龍角寺古墳群・岩屋古墳」の見学者への説明案内についての便益を図るため、文化財サポーターとの協働を充実させてまいります。
・龍角寺古墳群指定・調査整備事業については、浅間山古墳エリアの指定地の公有化について推進してまいります。また、岩屋古墳エリア、浅間山古墳エリアなどの未指定地について指定同意書の取得について推進してまいります。

5 【本町教育行政が取組む方向について】

教育長より

平成24年度「栄町教育方針」を具現化するために、12の施策を展開してまいりました。各施策について自己点検・評価を行うことにより現状と課題を把握しておりますが、学識経験者の方から取り組みと成果について、微に入り細に入り評価をいただいたことは意義あるものと受け止め、さらに教育行政の充実のために真摯な態度で取り組んでいきたいと考えております。

教育委員会では、平成27年度に向けて進めております学校統合をスムーズに実施し、該当する子どもたちが希望を持って新しい学校で「楽しく・豊かな学校生活」が営めるよう全力を挙げて支援していかねばならないと考えております。

また、栄町の全ての児童生徒が「生きる力」を育むために、学校・家庭・地域など社会全体で子どもの教育に取り組むことが重要であると認識しております。

今後は、多岐に渡る教育行政の課題解決に向けて、一つひとつの施策をより実効性の高いものになるよう取り組んで行く所存です。